

別記様式第7号

公益信託ぎふNPOはつらつファンド  
実績報告書(事業助成用)

平成19年2月28日

公益信託ぎふNPOはつらつファンド受託者  
三菱UFJ信託銀行株式会社 へて

住 所: 〒506-0101  
岐阜県高山市清見町牧ヶ洞4444-

3

法 人 名: 特定非営利活動人 飛騨インタープリター協会  
代表者名: 会 長 直 井 幹 夫

公益信託ぎふNPOはつらつファンドから平成18年度(前期・後期)の事業助成を受けた事業が完了しましたので、下記のとおり関係書類を添えて報告します。

記

1. 事業名

自然公園等維持管理体制構築モデル 事業

2. 助成の種類 該当するものに を付けてください。

法人設立前事業助成	立ち上げ時期事業助成	展開期事業助成	人材育成事業助成
-----------	------------	---------	----------

3. 助成金額

既交付金額	950千円
実績額	950千円
差し引き額	0千円

4. 事業実施期間

平成18年4月1日 ~ 平成19年1月31日 ( 年10か月間)

## 5 . 実施した事業の実績・成果

(1) 具体的な活動状況（実施日時、場所〔住所〕、対象者、参加者等）

表1に今年度開催しました自然公園等維持管理体制構築モデル事業の調査日と調査地点を示しました。初夏と盛夏、そして初秋の3つの季節に、おおくら滝遊歩道、宇津江四十八滝遊歩道、天生湿原遊歩道の3箇所のパトールとゴミの実態調査を行いました。

表1 調査日と調査地点一覧

季節	月日	調査地点
初夏	6月24日	おおくら滝遊歩道
	6月25日	宇津江四十八滝遊歩道
	7月1日	天生湿原遊歩道
盛夏	8月25日	天生湿原遊歩道
	8月26日	おおくら滝遊歩道・宇津江四十八滝遊歩道
初秋	10月6日	宇津江四十八滝遊歩道
	10月7日	天生湿原遊歩道
	10月17日	おおくら滝遊歩道

表2に参加者数の一覧を示しました。それぞれ協会員を中心に、ときによっては自然に関心のある市民も含めて調査を行いました。

表2 参加人数

月日	調査地点	参加人数
6月24日	おおくら滝遊歩道	10人
6月25日	宇津江四十八滝遊歩道	6人
7月1日	天生湿原遊歩道	8人
8月25日	天生湿原遊歩道	9人
8月26日	おおくら滝遊歩道	6人
8月26日	宇津江四十八滝遊歩道	5人
10月6日	宇津江四十八滝遊歩道	5人
10月7日	天生湿原遊歩道	7人
10月17日	おおくら滝遊歩道	4人

このゴミの実態調査は、各遊歩道について5つのエリアに区切り、5つそれぞれのエリアでゴミの量や種類がどのように異なるか調査する実験プロトコールを立案しました。

ここに宇津江四十八滝遊歩道で設定したエリアを齢に挙げます。表3にはいその一覧を示しました。



表3 宇津江四十八滝遊歩道

エリア	区間	カラー
A	料金所～函滝	黒色で示した遊歩道沿い
B	函滝～大滝	赤色で示した遊歩道沿い
C	大滝周辺	水色の枠内の休憩エリア
D	大滝～朝霧滝	緑色で示した遊歩道沿い
E	朝霧滝～料金所	黄色で示した遊歩道沿い

(2) 活動の成果（開催行事等の参加規模、目的の達成度、効果等）

表4にゴミの収集日の3回のゴミの総量を示しました。これにより、人が車などで簡単に入りやすい地点にゴミが多いことが分かりました。トレッキングや散策を楽しむ人たちが入山したり、歩いたりする遊歩道に関しては、ゴミ量が少ないことが分かりました。

表4 ゴミの収集日の3回のゴミの総量  
おおくら滝遊歩道

月日	地点 A	地点 B	地点 C	地点 D	地点 E	合計
6月24日	27	6	30	10	1	74
8月26日	39	15	21	20	0	95
10月17日	12	0	22	5	1	40

宇津江四十八滝遊歩道

月日	地点 A	地点 B	地点 C	地点 D	地点 E	合計
6月25日	7	8	1	7	2	25
8月26日	8	12	5	2	3	30
10月6日	11	9	4	10	3	37

天生湿原遊歩道

月日	地点 A	地点 B	地点 C	地点 D	地点 E	合計
7月1日	6	3	4	11	1	25
8月25日	8	6	3	1	1	19
10月7日	1	2	4	11	1	19

1番多いエリア

2番に多いエリア



ほかに分かったことは、

人が気軽に訪れることができる場所には特にタバコ類などのゴミが多い

暖かな季節で、車で簡単に訪れることができる場所にはお弁当のゴミが目立つ

ということでした。

### (3) 今後の課題

今回の自然公園等維持管理体制構築モデル事業で感じたことは、調査人員の確保が難しいということでした。年間計画を立てたのですが、行楽シーズンになると、家族などの計画も入ってしまい、この調査に参加できる人員が少なくなってしまうということです。そのため、最小限の人数で調査が可能なように、人員配置を練り直しました。

できる限り少ない人数、できれば一人でも調査可能なシステムができればよいのですが、最低でも3人は必要になってきます。そのため、より多くの人に声をかけることが必要になってくると思います。そこで一つの団体だけでなく、複数の団体で調査をできるシステムの構築が必要になってくると痛感しました。

今回の調査後、報告書も作製しました。その報告書をほかの団体にも配布しましたので、読んでいただき、調査可能な団体とも協力体制がとれればよいと思っています。

また今回はおおくら滝遊歩道、宇津江四十八滝遊歩道、天生湿原遊歩道の3箇所、自然公園等維持管理体制構築モデル事業を行いました。できれば飛騨地域だけでなく、岐阜県内にある自然公園や遊歩道で同様な自然公園等維持管理体制構築モデル事業を開催したいと思っています。可能であれば、より多くの自然公園や遊歩道でこの自然公園等維持管理体制構築モデル事業を行いたいと思っています。この自然公園等維持管理体制構築モデル事業を行うことにより、公園の維持管理がしやすくなり、私たちにも利用しやすい公園や遊歩道になっていくものと考えます。